

【事業者名称】グループホーム エーデル土山

H20年3月31日評価実施

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I 理念に基づく運営</b>					
I-1. 理念と共有					
1	1	<input checked="" type="checkbox"/> ①地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	『至誠』を基本理念に広く住民に愛され多くの人たちが集い、ふれあい、うるおいを感じることに出来る空間作りに努めている。		
2	2	<input checked="" type="checkbox"/> ②理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝礼を毎日行い理念を確認している。		
3		<input checked="" type="checkbox"/> ③家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	パンフレットやホームページに理念を記載。		
理念と共有 3項目中 3項目					
I-2. 地域との支え合い					
4		<input checked="" type="checkbox"/> ①隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	外出の際や地域行事への参加の際には是非、当施設に遊びにきてもらうよう促しを行っている。		
5	3	<input checked="" type="checkbox"/> ②地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	保育所交流や地域の催し物への参加。中学校、学生へのグループホームや認知症の説明会を行っている。		
6		<input type="checkbox"/> ③事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域高齢者のための貢献という点では具体的な活動は出来ていない。	○	今後、施設内で地域住民に対しての介護者教室を行いたいと考えている。
地域とのつきあい 3項目中 項目					

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I-3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	<input checked="" type="checkbox"/> ①評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	入浴回数を増やした。		
8	5	<input checked="" type="checkbox"/> ②運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	H20年3月に初めて運営会議を実施。家族、保険者を交え当グループホームの運営状況等報告した。	○	2回目以降、もっと地域に馴染んでいけるにはどうしていきべきかを話していければと考えている。また気軽に話し合える雰囲気での会議にしたい。
9	6	<input checked="" type="checkbox"/> ③市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	甲賀市との関係作りでは市の担当者にも実際、顔を合わせ実情を報告したりサービスについて前向きな話が出来るよう努めている。		
10		<input type="checkbox"/> ④権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現状で該当する利用者はおられず学習の機会も持っていない。	○	現在、権利擁護に関する制度に該当される利用者はいないが、今後十分に制度に該当する利用者入居も考えられるため外部への研修会、内部での勉強会を実施したい。
11		<input checked="" type="checkbox"/> ⑤虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々の観察の中で常に外傷等には注意を払っている。またケアの質を高めるため『ケア向上委員会』を発足しケア内容を発表する機会を設けている。		
理念を実践するための制度の理解と活用 5項目中 4項目					
I-4. 理念を実践するための体制					
12		<input checked="" type="checkbox"/> ①契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書を中心に丁寧な説明に心がけている。また不明な点があれば、いつでも連絡してもらおう声をかけている。		
13		<input checked="" type="checkbox"/> ②運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情マニュアルを作成し、苦情があれば、すぐに管理者に報告するよう努めている。またそれらの内容を元に要因を探ることでサービスの向上が図れるよう考えている。		
14	7	<input checked="" type="checkbox"/> ③家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	些細な出来事でも家族には連絡と報告を行うよう心がけている。	○	職員の異動では報告出来ず迷惑をかけたこともあったので確実に連絡が出来るよう努めて行きたい。

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
15	8	<input checked="" type="checkbox"/> ④運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に苦情解決責任者と外部者への通報先を明示している。		
16		<input checked="" type="checkbox"/> ⑤運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の申し送りや主任会議の中でグループホーム内の意見、提案を聞ける環境を作っている。	○	今後、毎月1回はグループホーム内で会議を持つこととし管理者も参加するようにし現場の生の声を聞ける体制を作っていく。
17		<input checked="" type="checkbox"/> ⑥柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	業務に関して併設の特養勤務者と兼務している時間帯がある。特養とのバランスも考慮しながらベストの体制をとれるよう調整している。		
18	9	<input checked="" type="checkbox"/> ⑦職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員異動の際には利用者1人、1人に対して説明を行っている。	○	今後職員異動の際には家族への連絡も同時に行っていきたい。
理念を実践するための体制 7項目中 7項目					
I-5. 人材の育成と支援					
19	10	<input checked="" type="checkbox"/> ①職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各経験年数に応じて職員教育プログラムを組んでいる。	○	より高い職員レベルを構築するために各経験、カテゴリー(職種、役職別)研修を強化していく。
20	11	<input checked="" type="checkbox"/> ②同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	甲賀圏域の他グループホーム協議会へ積極的に参加しており運営報告や問題啓発等を行っている。気軽に相談できるようネットワーク作り構築に努めている。		
21		<input checked="" type="checkbox"/> ③職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	『より良い人間関係はより良い仕事につながる』をモットーに風紀担当職員を配置しストレスマネジメントに努めている。また職員の体育クラブも創設している。	○	体育クラブ以外でも食事サークル等を検討している。
22		<input checked="" type="checkbox"/> ④向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	毎月、各スタッフに主任から個別面談を設け目標設定と評価を行っている。		
人材の育成と支援 4項目中 4項目					

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
II-1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		<input checked="" type="checkbox"/> ①初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	5名と比較的利用者数が少ないので個別ケアとして深く関わっている。スタッフから利用者に声をかけ細かい表情にも配慮し悩みがないか配慮している。		
24		<input checked="" type="checkbox"/> ②初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族が面会に来られた際には可能な限り時間を設け話を聞けるよう努めている。		
25		<input checked="" type="checkbox"/> ③初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族との面談や話合いの中で様々な社会資源を探りながら、一番ベストと思われる支援を提案するよう努めている。		
26	12	<input checked="" type="checkbox"/> ④馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	初めてグループホームを利用される方には雰囲気にも慣れていただくため施設見学をしっかりとらせている。		
相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 4項目中 4項目					
II-2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	<input checked="" type="checkbox"/> ①本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	スタッフと馴染みの関係を築くために、各利用者との接し方を細かくプランにも提示している。		
28		<input checked="" type="checkbox"/> ②本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時にご家族にも一緒にお茶を囲んで利用者と職員の中に入ってもらう等の配慮をしている。	○	今後、地域推進運営会議も、アットホームな雰囲気の中で話しが出来るよう努めていきたい。
29		<input checked="" type="checkbox"/> ③本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時や行事の際に一緒に食事やお茶を飲む時間を持つ等、してもらっている。		

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30		<input checked="" type="checkbox"/> ④馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近隣の行事、催し物に参加したり買物に出かけることで交流を持っている。		
31		<input checked="" type="checkbox"/> ⑤利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	各ケアプランに他利用者との関係やポイントを記載。5名の関係性を常に考慮しストレスがかからないよう努めている。		
32		<input checked="" type="checkbox"/> ⑥関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス終了後、ご家族から連絡や相談があれば、いつでも応じる体制を整備している。(生活相談室あり。)		
新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 6項目中 6項目					

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>Ⅲ-1. 一人ひとりの把握</b>					
33	14	<input checked="" type="checkbox"/> ①思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	可能な限り施設内で本人の希望がかなうようケアプランに取り入れている。また施設だけでは実行に限界がある場合、ご家族にも支援を依頼する。		
34		<input checked="" type="checkbox"/> ②これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族からの情報収集、利用者からの話や生活の中から探っていく日々のケアに取り入れている。		
35		<input checked="" type="checkbox"/> ③暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々の様子観察に努め併設特養の看護師との連携をとり対応している。		
一人ひとりの把握 3項目中 3項目					
<b>Ⅲ-2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
36	15	<input checked="" type="checkbox"/> ①チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	実践可能なケアプラン、具体的内容のサービス内容に重点を置き本人の思いが反映されるようプラン作成を心がけている。	○	今後、プラン作成前にはご家族の意見も積極的に取り入れたい。
37	16	<input checked="" type="checkbox"/> ②現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月ごとの見直し、モニタリングを行い状態に応じたプラン内容であるかどうかをチェックしている。		
38		<input checked="" type="checkbox"/> ③個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランのサービス内容実施の記録を生活記録とは別に残しており、より細かく本人のニーズに合致するよう心がけている。		
介護計画の作成と見直し 3項目中 3項目					
<b>Ⅲ-3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
39	17	<input checked="" type="checkbox"/> ①事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	特養と併設しているので、顔なじみの他利用者との面会を希望された際には自由に会いにいってもらえる。		
多機能性を活かした柔軟な支援 1項目中 1項目					

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
		Ⅲ-4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40		<input checked="" type="checkbox"/> ①地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	防災訓練には甲賀市消防より隊員に來所してもらっている。中学校の体験学習や施設見学、案内も積極的に行っている。	○	今後、ボランティアとの交流を重視して進めていきたいと考えている。
41		<input checked="" type="checkbox"/> ②他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	併設特養との連携はとれているが他法人のケアマネジャーとも協議できる体制を確保する必要がある。	○	今のところ、そのようなケースはないが本人からの意向があれば、他ケアマネとも協議をしていく。
42		<input checked="" type="checkbox"/> ③地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在、地域推進運営会議にて地域包括より職員出席されている。	○	今後、地域包括支援センターの職員ともより連携を深めていきたい。
43	18	<input checked="" type="checkbox"/> ④かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設特養の施設医を主治医にされている方、他病院に主治医を持たれている方、双方に良好な関係を築けるよう連絡体制を整備している。		
44		<input checked="" type="checkbox"/> ⑤認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	現状では、認知症専門医との関係はない。今後の課題。	○	認知症に詳しい医師と職員が、相談出来るような関係作りに努力したい。
45		<input checked="" type="checkbox"/> ⑥看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	併設特養の看護師と毎朝、夕のミーティングを行っており急変や体調不良に備えて情報を共有している。		
46		<input checked="" type="checkbox"/> ⑦早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	施設福祉部として特養、グループホームに生活相談室・相談員を3名配置し各病院の地域連携室とも協力を図っている。		
47	19	<input checked="" type="checkbox"/> ⑧重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ターミナルケアは行っていないが、利用者の体調、体力に合わせて家族との面談を持ち将来の対応について協議している。	○	施設の設備上、看取り、重度の対応には限界がある。ご家族、利用者が不安にならぬよう早目の話し合いを行い状況に応じた対応をとっていきたい。

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48		<input checked="" type="checkbox"/> ⑨重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ターミナルケアは行っていないが、利用者の体調、体力に合わせて家族との面談を持ち将来の対応について協議している。		
49		<input checked="" type="checkbox"/> ⑩住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	転居前には家族と十分な話し合いを行い少しでも環境の変化によるダメージ軽減を目指している。		
地域資源との協働 10項目中 7項目					

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
IV-1. その人らしい暮らしの支援					
IV-1. (1) 一人ひとりの尊重					
50	20	<input checked="" type="checkbox"/> ①プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーに配慮した言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしている	各個人に合わせた声掛けを心掛けている。個人情報保護には注意し職員に対しての教育も行っている。		
51		<input checked="" type="checkbox"/> ②利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	自己決定を尊重し本人に対して説明を行う際は『ゆっくり、丁寧に』を心掛けている。		
52	21	<input checked="" type="checkbox"/> ③日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	各個人の生活ペースに応じた暮らしが出来るよう、時間的に余裕が出るよう業務の見直しに努めている。		
その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重 3項目中 3項目					
IV-1. (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		<input checked="" type="checkbox"/> ①身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	毛染めは職員が行い、それがコミュニケーションのひとつになっている。本人の望む店があれば家族と行けるように努めている。		
54	22	<input checked="" type="checkbox"/> ②食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食は毎日利用者と職員が協力して自炊・片付けを行っている。		
55		<input checked="" type="checkbox"/> ③本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	買い物時に利用者におやつ等を選んでもらっている。		
56		<input checked="" type="checkbox"/> ④気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりの排泄パターンの把握に努め、本人に合う下着を着用してもらっている。また羞恥心に配慮した対応を行っている。		
57	23	<input checked="" type="checkbox"/> ⑤入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の曜日や時間帯は職員が決定している。	○	本人の希望があれば、その時対応出来るような体制を作っていきたい。

自己評価項目	外部評価項目	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
58		<input checked="" type="checkbox"/> ⑥安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	昼寝や就寝時間は自由であり、本人のペースに合わせている。		
その人らしい暮らしの支援 (2)基本的な生活の支援 6項目中 5項目					
IV-1. (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	<input checked="" type="checkbox"/> ①役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ケアプランに本人が生きがいを感ずて生活が出来るよう、楽しみに繋がるサービス内容を取り入れている。		
60		<input checked="" type="checkbox"/> ②お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には施設管理だが利用者によっては金銭を持つことに自尊心を感じておられる方もおり可能な範囲で気軽に使えるよう配慮している。		
61	25	<input checked="" type="checkbox"/> ③日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそつて、戸外に出かけられるよう支援している	地域、季節に応じた外出に行っている。月2回の買い物に行っている。	○	希望にそつて戸外に出られるよう努力したい。ミニ外出等、企画検討している。
62		<input checked="" type="checkbox"/> ④普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	地域、近隣への行事への参加をしている。	○	今後、ご家族と共に行ける外出も視野に入れて検討していきたい。
63		<input checked="" type="checkbox"/> ⑤電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	併設特養内に2箇所の公衆電話を設置しており自由に電話できる環境にある。また手紙に関しては生活相談室を通して、やりとり可能。	○	ケアプランにもご家族との関わりを取り入れて交流がとれるよう支援していきたい。
64		<input checked="" type="checkbox"/> ⑥家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時にご家族に対して笑顔で迎え入れたり、接し方に配慮している。	○	今後、よりアットホームな施設として明るい雰囲気を感じてもらえるよう職員一同努めていきたい。
その人らしい暮らしの支援 (3)社会的な生活の支援 6項目中 4項目					
IV-1. (4) 安心と安全を支える支援					
65		<input checked="" type="checkbox"/> ①身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設置し抑制は全面禁止としている。		

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	26	<input checked="" type="checkbox"/> ②鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	エレベーター、渡り廊下等の電子錠を開錠している。殆どの電子錠は使用していない。		
67		<input checked="" type="checkbox"/> ③利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	各スタッフがPHSを持ち常時、連絡がとれるよう体制を整備している。		
68		<input checked="" type="checkbox"/> ④注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	各ケアプランに、その人に応じた危険リスクやポイントを記載し注意している。		
69		<input checked="" type="checkbox"/> ⑤事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	リスクマネジメント委員会を設置しており危険因子に対する対応を築いている。月1回リスクマネジメント委員が集まり様々な状況に対して協議している。		
70		<input checked="" type="checkbox"/> ⑥急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急対応のシュミレーション研修や夜間の救急対応、連絡体制を確保している。	○	今後も救急対応に関する研修に努めていく。
71	27	<input checked="" type="checkbox"/> ⑦災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練を定期的に行っている。	○	地域住民の協力を得られるよう、日頃から地域にグループホームを理解、関わっていく必要がある。
72		<input checked="" type="checkbox"/> ⑧リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	ケアプラン提示時、面会時等を利用し、ご家族に対し転倒や疾患に対するリスクを詳しく説明している。		
その人らしい暮らしの支援 (4)安心と安全を支える支援 8項目中 6項目					
IV-1. (5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		<input checked="" type="checkbox"/> ①体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	併設特養の看護師と連携をとり早急に対応が出来るよう努めている。	○	生活相談室、看護部、グループホームの各セクションが日頃からの連絡体制を強化し、リスクに対して備えることが重要。

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
74		<input checked="" type="checkbox"/> ②服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	併設特養の看護師とも連携を図り対応をとっている。		
75		<input checked="" type="checkbox"/> ③便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄チェック表を作成し、看護師との連携を図っている。また該当者にはプランにも、具体的な便秘予防について記載している。	○	今後も便秘の利用者にはプランにも積極的に対応方法を記載、対応していきたい。
76		<input checked="" type="checkbox"/> ④口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、確実に口腔ケアが出来るよう支援している。		
77	28	<input checked="" type="checkbox"/> ⑤栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設特養の管理栄養士と連携を図り栄養に関する対応をとっている。		
78		<input checked="" type="checkbox"/> ⑥感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症が疑われた場合、看護部より直ちに対応方法が周知され蔓延に対し防護する。感染マニュアルあり。		
79		<input checked="" type="checkbox"/> ⑦食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	管理栄養士により対応している。		
その人らしい暮らしの支援 (5)健康面の支援 7項目中 7項目					
IV-2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
IV-2. (1) 居心地のよい環境づくり					
80		<input checked="" type="checkbox"/> ①安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関は併設特養と共同になっているが、グループホーム入り口には手作りの作品を展示して入りやすい雰囲気づくりをしている。		
81	29	<input checked="" type="checkbox"/> ②居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔で居心地のよい空間づくりに努めている。壁面には季節感を感じてもらえるような作品を展示している。		

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
82		<input checked="" type="checkbox"/> ③共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルを3台設置し、自由にソファや椅子を利用出来、本人のペースで思い思いに過ごせるようにしている。		
83	30	<input checked="" type="checkbox"/> ④居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に仏壇を置いたり、家族の写真を飾ったり、本人に合った居心地のよい空間づくりに努めている。		
84		<input checked="" type="checkbox"/> ⑤換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	常に換気・温度調節に気を付け、乾燥する季節は加湿器を設置している。		
生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり 5項目中 5項目					
IV-2. (2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		<input checked="" type="checkbox"/> ①身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーになっており段差を解消している。	○	エレベーターは車椅子が、ようやく1台入る大きさであり浴室に関しては下肢筋力が低下すると入浴が難しい。設備面では重度利用者に対しては限界がある。
86		<input checked="" type="checkbox"/> ②わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	各ケアプランに、その人が安心して過ごせるようなサービス内容を記載し、混乱や失敗をしないように配慮している。		
87		<input checked="" type="checkbox"/> ③建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダには花や野菜を植えており菜園としても活用している。また夏にはバーベキューや体操の場としても活用。気分転換の場としても最適である。		
生活環境づくり (2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり 3項目中 3項目					

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

V. サービスの成果に関する項目		取り組みの成果 (該当する箇所の番号の左横に○印をつけること)
項目		↓○印欄
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
項目		14 取り組みの成果 (該当する箇所の番号の左横に○印をつけること)

		↓○印欄
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の2/3くらいが <input type="radio"/> ③職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> ③家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

当グループホームは甲賀市の東端、土山町にあり豊かな自然と美味しい空気の中に包まれた施設です。利用定員は5名で少数規模ですが、その分、スタッフや利用者との馴染みの関係は深く良好であると自負しています。当施設の特徴に挙げられるのが『楽しい生活を目指す』というものです。精神的に楽しくなければ施設生活は、おろか人生までもがつまらないものになってしまいます。施設生活においてストレスがかからないこと、遣り甲斐や目標を持って生活できることを念頭に置きケアプラン（介護計画書）にも実践的かつ意味のあるサービス内容を実施できるよう配慮しています。またご利用者の安全と安心を守ることに重点を置いておりリスクマネジメント委員会を設置、日々、危険のないよう取り組んでおり万が一の事故や怪我に対して備えています。地域との関わりでは週2回の地元商店への買い物や近隣への外出を行っており、地域に根ざした福祉施設創りに努めています。医療面では併設特養の看護師との連携の元、健康管理を行っています。心身共に健康に、良好な人間関係の中、充実した施設生活を送れるよう支援しています。

# 評価結果整理表

個別表		□のチェック項目数
<b>I 理念に基づく運営</b>		
－1.	<input checked="" type="checkbox"/> 理念と共有	3 項目/3項目
－2.	<input checked="" type="checkbox"/> 地域との支え合い	2 項目/3項目
－3.	<input checked="" type="checkbox"/> 理念を実践するための制度の理解と活用	4 項目/5項目
－4.	<input checked="" type="checkbox"/> 理念を実践するための体制	7 項目/7項目
－5.	<input checked="" type="checkbox"/> 人材の育成と支援	4 項目/4項目
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>		
－1.	<input checked="" type="checkbox"/> 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4 項目/4項目
－2.	<input checked="" type="checkbox"/> 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6 項目/6項目
<b>III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>		
－1.	<input checked="" type="checkbox"/> 一人ひとりの把握	3 項目/3項目
－2.	<input checked="" type="checkbox"/> 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3 項目/3項目
－3.	<input checked="" type="checkbox"/> 多機能性を活かした柔軟な支援	1 項目/1項目
－4.	<input checked="" type="checkbox"/> 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10 項目/10項目
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>		
<b>IV－1. その人らしい暮らしの支援</b>		
－1. (1)	<input checked="" type="checkbox"/> 一人ひとりの尊重	3 項目/3項目
－1. (2)	<input checked="" type="checkbox"/> その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援	6 項目/6項目
－1. (3)	<input checked="" type="checkbox"/> その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援	6 項目/6項目
－1. (4)	<input checked="" type="checkbox"/> 安心と安全を支える支援	8 項目/8項目
－1. (5)	<input checked="" type="checkbox"/> その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援	7 項目/7項目
<b>IV－2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>		
－2. (1)	<input checked="" type="checkbox"/> 居心地のよい環境づくり	5 項目/5項目
－2. (2)	<input checked="" type="checkbox"/> 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり	3 項目/3項目

## 総合評価

### I 理念に基づく運営 ( 項目/5項目)について

地域、近隣との付き合いや交流では特定の付き合いのみで留まっている。今後、もっと地域に根ざした施設を目指すため、積極的に地域との関わりを図っていききたい。またケアの質を高めるためにも職員内の研修体制を確立しているが、今後、育成プログラムについては更に熟成させていきたい。

### II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 ( 項目/2項目)について

利用者との関係作りについては5名と利用人数が少ないので深い関わりを持ってしていると自負している。家族との関係については、生活相談室とグループホームの現場職員との連携をより密にとっていくことで、細かい情報までも共有し家族面会時や電話等で詳しく解りやすい状態説明や相談に応じたいと考えている。

### III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント ( 項目/4項目)について

本人の意向や特性に応じたケアプラン内容作成に努めている。またプラン内のサービス内容については実践可能な内容を記載し定期的にモニタリング、評価を行っている。記録に関しても生活記録とケアプランの実施記録と両方つけており、その人が過しやすくするために何がベストかを考えている。地域包括職員や、かかりつけ医との連絡や相談体制は今後も継続して強化していく必要があると考えている。

### IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 ( 項目/4項目)について

プライバシーの保護や個別ケアは概ね実施出来ている。身だしなみや周知心に配慮したケアを目指しており本人が気持ちよく生活できるようにケアプランにも積極的に、その人に応じたケアのポイントを記載することでスタッフが共有認識を持ちケアに当たれるよう努めている。身体拘束については併設特養とも連携をとり拘束ゼロを達成している。事故に対してはリスクマネジメント委員会を設置し、重篤な事故や怪我に至らないように努めている。緊急対応のシミュレーションには今後も力を入れて取り組んでいきたい。

### V サービスの成果に関する項目について

ほぼ皆に対しての満足度は得られていると思うが、今後もより、満足の質を高めていきたい。

☆サービスの質の向上に向けて、取り組む課題と優先順位、具体的な行動の計画

事業者名称 グループホーム エーデル土山

評価年月日: 20年 3月 31日

前回評価年月日: 年 月 日

サービスの質の向上に向け取り組む課題			取り組み期間 (○年○月～ ○年○月まで)	改善に向けた具体的 な行動	達成度評価	次期 評価 実施 時期
評価項目 番号	優先 順位	内 容				
6	1	事業所や職員の状況に応じて地域高齢者の暮らしに役立ちたい。	20年4月～ 21年3月まで	介護教室や施設見学会を検討する。		
41	2	他サービスの活用支援	20年4月～ 21年3月まで	他事業所との連携を強化していく。		
70	3	急変時、事故発生の備え	20年4月～ 21年3月まで	緊急時シュミレーションを実施する。		
21	4	職員のストレス軽減	20年4月～ 21年3月まで	体育クラブ以外でもサークル活動を実施していく。		